

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年12月14日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14	(依頼数) 18
地域アンケート	(回答数) 7	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3871400259
事業所名	グループホーム 蘭
(ユニット名)	2棟
記入者(管理者)	
氏名	谷本 茂樹
自己評価作成日	29年 11月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な生活環境の中人間尊重を基本とする。 ・尊厳のある生活を送る施設。 <p>いきいきとさせてあげる。</p> <p>輝かせてあげる。</p> <p>・介護職員もケアする事により、人間的に成長する。</p> <p>・利用者、家族、職員、地域の方が安心してもらえる施設とします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>①行きたい研修、自分に足りない研修を自分で見つけて、研修に参加してスキルアップを図る。</p> <p>＜取り組み内容＞全職員が自分で選んで研修に必ず1回以上参加し、職員会で報告する。</p> <p>＜実施した事＞全職員が1回以上研修に参加した。</p> <p>＜結果＞研修に参加させてもらえず、勉強不足を感じていた職員がどう感じたかは不明。</p> <p>②ご家族と、話し合う機会や報告する機会を設ける。</p> <p>＜取り組み内容＞運営推進会議に全ご家族に案内文を送付する。</p> <p>＜実施した事＞2年間で6回案内文を送付した。</p> <p>＜結果＞運営推進委員のご家族代表以外のご家族の方が、延8人参加していただいた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>保育園の運動会では、利用者もハンパない競争に参加した。節分には職員が鬼役になって協力している。</p> <p>調査訪問日は、保育園で餅つきをしており、午後に園児が餅のおすそ分けに来ていた。</p> <p>近所に自宅がある帰りたい気持ち強い利用者には、外を歩く時、公民館長や近所の人が声をかけてくれる。</p> <p>毎月、グループホーム蘭通信と個別の近況報告を送付して日常の様子を報告しており、好評を得ている。</p> <p>ユニットを入ると台所があり、食事をつくる様子が見える。畳のスペースでは、利用者が腰を掛けて洗濯物をたたんでいた。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らしの希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	○	入所時にご本人やご家族に聞いたり、日々の生活の中で、思いや、希望を聞いたり、分からない事はご家族にも聞くようにし、職員で共有するようにしている。しかし、分からない事や難しい事も多々ある。	◎		○	入居時と、要介護認定更新時期(介護計画見直し時期)に、利用者個々の担当職員が他職員から聞き取り、私の姿シートなどのアセスメント様式を用いて、「こんな介護してほしい」「私の不安や苦悩」「私がやりたいこと」などについての情報をまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの生活歴や性格などご家族等から聞いて、ご本人の現在の状況や症状もふまえながら全職員で検討をしている。				言葉で表せない人については、職員が慮って記入している。しかし、情報量が少なかつたり未記入欄があるケースもある。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族や知人が面会に来られた時に聞いたり、必要ならば入所前のケアマネや他施設の関係者に聞いたりしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシート、介護記録に記入している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	決めつけない様に心掛けているが、介護経験を重ねる事で考え方が固くなり職員の思い込みや決めつけにより関わっている場面もある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時にご本人やご家族、関係者から聞き、分からない事は日々の暮らしの中で情報を得るように努めている。			△	生活歴や以前の生活環境などについては、入居前に、関わっていたケアマネジャーや家族からの情報を得て、課題分析表に生活状況としてまとめている。入居後に得た情報の追記は行っていない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の生活の中で現状の把握に努め、毎日の申し送り時や月2回のカンファレンスを利用して全職員で把握・共有に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に記録し、申し送りやカンファレンスで把握、共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかわり等)	◎	介護職員、看護師で要因を話し合い把握に努めている。必要ならば主治医にも相談している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護記録に記録し、申し送り等で把握・共有している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の視点で検討をしているが、職員側の視点になっている場面もある。			◎	月2回行う職員会時には、利用者の行動の背景などについても考察しながら本人の視点で検討している。生活向上委員会を設置しており、利用者の暮らしやすい環境作りに向けて提案して取り組みをすすめている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日々の業務、月2回のカンファレンスで検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	日々の業務、月2回のカンファレンスで検討している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご家族の意向もあり、可能な限り心掛けている。				「事業所で生活し続けるため」の介護計画作成に取り組んでいる。家族や必要に応じて看護師、かかりつけ医の助言を反映している。姉妹の意向を探り入れられているケースもみられた。家族は「お任せします」という人が多いようだ。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々のケアのあり方や課題を職員で話し合い、ご家族に相談している。可能ならご本人聞いたりしている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	可能な限り行っているが、事業所の方針が家庭的な雰囲気重視しているため、プランにあげなくても自然に暮らしておられる。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	可能な限り行っているが、事業所の方針が家庭的な雰囲気重視しているため、プランにあげなくても自然に暮らしておられる。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者様の担当職員が考えて、最終的に全職員で共有しながら決めている。また、各介護記録にケアプランを記入してある。			○	介護記録用紙の上部に計画の支援内容を示しているが、この機会に、すべての職員が把握、理解、共有しているか点検してほしい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録にケアプランを実行してから記入するようにして、カンファレンスで話し合っている。			△	ユニットによっては、変化があった時のみ、支援内容の番号を介護記録に記しているが、実践できたかを確認できないケースが多い。月2回行う職員会時のカンファレンスでは、気になる利用者について状況確認を行い、カンファレンス記録に記入している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録日に記入している。			△	介護計画に基づいた記録という点からは、記入が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個別の介護記録に記入している。			△	介護記録様式には、介護者の考察欄を設けているが、気づきや工夫、アイデアなどの記入は少なく、口頭での話し合いが多いようだ。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	明らかに状況が変わった場合などは、その都度変更するが、それ以外は期間に応じて見直ししている。			◎	見直し時期について、1棟は個々の要介護認定時期(1年ごと)と決めている。2棟は、1年ごと、(2月)と決めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月2回のカンファレンスや申し送り時に確認している。			○	月2回行う職員会時のカンファレンスで、気になる利用者について現状確認を行い、カンファレンス記録のモニタリング欄に記入している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば、見直しをしている。			△	入退院などで本人の状態が明らかに変わった場合は見直しすが、そのような事例はこの一年間ではなかったようだ。変化時に支援内容を追加することがあるようだ。この機会に、個々の現状に即した計画になっているかを点検してほしい。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月2回は必ず話し合う場があり、緊急の場合は、その日の勤務者で話し合い、連絡帳や口頭で共有している。			◎	月2回、全員参加で職員会を行っている。緊急案件があれば、その日勤務する職員が口頭で話し合い、決まったことを連絡帳などに記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個人差はあるが、意見交換は出来ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	基本、職員は全員参加で、看護師のパートさんは参加していただいている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつけている。	◎	会議の資料を渡し、会議録を再確認のためにも回覧で見られるようにしている。				◎
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつけている。	○	口頭で伝えられない場合は連絡帳や回覧で情報を共有し、見たら必ずサインをするようにしている。しかし、たまに書き忘れることもある。			◎	たとえば、ヒヤリハット記録などについては、回覧して内容確認を行い、名簿に○を付けるなどのしくみをつけている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り時や連絡帳で伝達している。	◎			

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中で希望を聞いたりしているが、出来る事と出来ない事もある。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつけている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物、洋服、入浴、行事の参加など本人に選んでもらっている。希望の分からない方は表情などをみて決めている。			○	昼食後、職員が「今日はお風呂行ける?」と利用者に向けている場面がみられた。お誕生日には、本人が寿司か赤飯か選べるよう支援している。	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご本人の意思を確認しながら行っている。しかし、危険な場合は声を掛けたり、見守ったりしている。納得されてない場合もあると思う。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	家庭的な環境で利用者様のペースを大切に、無理強いをしないようにしているが、時間帯や緊急時、イベントなど、場合によっては職員のペースを優先してしまう場合もある。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	今までされていた事や得意な事を一緒にし、喜びや達成感を一緒に楽しみ、お互いが助け合える関係性を築けるよう努めている。				◎	利用者が若い頃のエピソードや得意なこと、興味のあることなどを話題にしてコミュニケーションを図っている様子が見られた。イベントを企画して、楽しむ機会を多く取り組んでいる。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や言葉、動き、いつもの違いを見ながら、思いや意向を汲み取る様になっている。無理強いはしない様になっている。					◎
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	理念にも掲げ、職員皆で意識して行動している。また、研修等に参加し学んでいる。	◎	◎	◎	この一年内では、道徳についての外部研修を受講した職員が、職員会時に内容を報告してみんで勉強を行った。理念には、「尊厳のある生活を送る施設」などと挙げており、職員会議時、管理者は、理念に触れて職員が意識して行動できるよう導いている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	人生の先輩として敬意を払って関わっているが、日々の関わりの中で、良い意味でも、悪い意味でも馴れ合いの様な言葉掛けの時もある。			◎	昼食前に、トイレ使用が長い人には、そっと様子を見るなどしながら本人の行動に合わせ、食事に誘うなどして支援していた。ジュースチャーしたり目線などで伝えたりしてコミュニケーションをする場面もみられた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	さり気なく、トイレや入浴に誘う様になっている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声を掛けたり、ノックして入る様に心掛けている。				◎	利用者に「お部屋を見せてもらっていいですか」と聞き、本人の許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修等でプライバシーの重要性について学んだり、入社時の説明会でも重要性について教えられ理解している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	炊事、洗濯など助けをもらったり、分からない事は聞いて教えてもらっている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	大切さは十分理解しているが、トラブルになることもある。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないうちから孤立しないよう、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者同士が支え合える機会を作る、世話役の利用者にうまみを発揮してもらう場面をつくる等)	○	それぞれの関係性を配慮しながら、リビングの席、作業の分担など考えている。また、利用者様によっては居室に遊びに行かれる方もある。				○	介助が必要な利用者が食事の様子をみて、他利用者が本人に「おいしそうに食べるね」と声をかけると、職員がその利用者に代わって「おいしいって」と応えていた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	さり気なく間に入ってトラブルの解消に努めている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	必要に応じて把握するように努めている。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握できている利用者様と出来ない利用者様がある。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの美容室、お店へ行かれていた時もあったが、難しくなってきた。知人が遊びに来ていただく方もある。希望や相手の方の了解があれば気軽に電話が出来る様になっている。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居心地よく過ごせ、また来やすい様に、気持ちの良い挨拶、飲み物、話す場所などに気を配っている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	希望があれば限られた職員の中で出来るだけ応えるようにしているが、時間帯や行く場所によっては難しい時もある。	○	○	○	昼食時に、職員が「今日は天気も良いし午後から散歩に行きませんか」と誘っている様子が見られた。「服がほしい」などの希望があれば、職員の手などをみて当日か近日常に買い物に出かけられるよう支援している。 福楽寺のおまつりで健康祈願したり、公民館、保育園や小学校の行事、畑の世話や園芸など戸外で過ごせるよう支援している。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	何があるかは分からないので、必要な場合はご家族に相談している。ご家族が難しい場合は職員が対応している。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	◎	重度、軽度で区別していない。希望があれば応えるし、行く行かないは別として誘う時には皆を誘っている。			○		車いすの利用者も、同じように支援している。畑の様子をみに出たりしている。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご本人の希望かどうかわからないが、春の家族会には、ご家族に協力していただきドライブに行っている。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	年度内に必ず1回は全職員(常勤)が認知症に関する研修に参加し、職員会で共有するようにし、課題があれば、月2回のカンファレンスや必要な集まれる職員で話し合い、ケアに繋げている。				食事の下ごしらえをテーブルで行っている利用者の様子が見られた。職員は見守りながら一緒に行っていった。 しかし、「利用者のできそうなことも行っているのではないか」と感じている職員もいる。アセスメントして心身機能の維持、向上を図る取り組みの場面や環境作りにつなげてはどうか。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎朝のバイタルを測定や表情など、それぞれの利用者様の身体状態を把握するようにしている。いつもと様子が違ったら看護師、主治医と相談するようにしている。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活の中で、利用者様の力を見極め、その日の心身の状態に合わせて、声の掛け方、関わり方を工夫しながら行っている。	○		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	職員の価値観を押し付けない様、その人にとっての役割や出番が何なのかを考えながら行っている。				利用者の興味のある、みかんを話題にして話している様子が見られた。職員は、利用者に聞いたり、教えてもらったりしていた。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの状態や思いを考えながら出番を作る様に意識している。難しい方にも、何か楽しみはないかなど考えたり、声をかけるようにしている。	◎	◎	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域での出番や役割はないが、地域の行事には参加している。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	カラー・カット・パーマをされたり、化粧をされている利用者様もある。馴染みの衣服を着ていたり、一緒に買い物に行き選んでもらう事もある。				それぞれが清潔で季節に応じた洋服を着て過ごしていた。食事中に食べこぼしがある利用者には、さりげなくティッシュを渡し、「拭いたらいいですよ」と声をかけていた。 後ろ髪が乱れているような利用者が複数見られた。 ミキサー食で食事介助が必要な利用者には、胸にタオルをおいて、「口の周りをきれいに保ちながら食事ができるよう支援していた。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	基本、入所時に馴染みの物を持ってきていただいているし、必要な物はご家族にお願いしたり、可能なら一緒に買い物に行くようにしている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	今までの好みや性格を考えながら、アドバイスしたり選んでいる。分からない場合はご家族に聞く様にしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	利用者様が持っている服装の中で可能な限り楽しめるよう支援している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	気づいたら、さり気なく直したり、着替えてもらっている。	◎	◎	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染みの店に行けるよう努めているが、年々減っている。しかし、どうしても行けない方には、理容師に事業所に来ていただきカラーやパーマを楽しんでもらったり、ご家族に切ってもらっている方もいる。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	髪型や服装など、本人らしさが保てない利用者様は事業所にいない。			○		

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は生きていく上で重要であることは理解しており、食事、水分は時間をかけてでも摂ってもらうように努めている。				調査訪問日は、テーブル席で複数の利用者が昼食の下ごしらえをしている様子がみられた。 職員は、利用者の好みの傾向を知っており、煮物などを採り入れて献立をついている。 箸やカップなど個別のものを使用している。 職員も一緒にテーブルを囲み、介助したり見守りしながら同じものを食べていた。 車いすの利用者について、足置きの使用やクッションで姿勢を正し、食事ができるよう支援していた。居間では、食事をつくる様子がみえる。また、においがしていた。 以前一年間の献立を栄養士に確認してもらったことがあり、栄養士のアドバイスにより、乳製品を増やすことに取り組んでいる。現在は、気づいたことがあれば口頭で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立は栄養のバランスや利用者様の好みを考えたり、誕生日やイベント時、季節の食材があれば利用者様に聞くようにしている。また、調理や片付けも得意な方や手伝っても良いよと言っていた方にはお願いしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	得意な事や利用者様の意向、その日の状態を見ながらお願いしている。常に感謝の気持ちは忘れない様にしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時にご家族やご本人に聞いたり、日常の会話の中で聞いたことや食事の進み具合を見ながら、職員で共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	今までの献立と現在の利用者様の状況を参考にしながら、メニューを決めている。また、畑で採れた野菜やご家族からなどの差し入れなど、旬な食材を利用したり、新しいメニューにも挑戦する時もある。しかし、10年以上のノウハウで定番メニューの方が多いような気もする。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	利用者様に合わせて食べやすく切ったり、主食を柔らかくしたり、盛り付け方や食器なども工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に馴染みの物を持ってきていただいているが、日々の生活の中で割れたり減ってきている。新しく購入する時はご家族にお願いしたり、利用者様の好みや意向を考慮して選んでいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も利用者様と一緒に食べ、見守りや介助の必要な方の横にさり気なく座る様にしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	利用者様と一緒に作ることで、匂いや音、会話等で雰囲気を感じてもらっていると思う。			◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士に、栄養バランス、カロリーなど確認してもらったことがあり、大丈夫と言ってもらったが、利用者様の中には難しい方もあり、1日を通じての栄養や水分量が確保出来るように努力している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	三食、食べた量と水分量を記録している。食べやす形状(好み・サイズ・とろみ・ゼリー)など工夫しても難しい利用者様には主治医に相談しエンシユアなどで対応している。また2/日のオヤツの時に水分を勧めたり、必要な方には通時動いている。居間にお茶やジュースを置いている方もある。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	以前に栄養士にはアドバイスを受けた。毎月、好評だったメニューや不評だったメニューなど聞く様にしていたが、鉄板メニューも多く、最近では聞いていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	次亜塩素酸の漂白剤や食器乾燥機で消毒に努めている。また、1/週、冷蔵庫の掃除、消毒をし、冷蔵庫内の食材は1週間内で使い切る様にしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修会に参加し学んでいる。				異常があれば確認して受診につなげているが、日々の中では、利用者の口の中の健康状況を把握する取り組みは目視にとどまっている。 朝・夕の歯磨きは声かけや誘導して支援するが、昼食後については本人に任せしており、自ら行っている利用者はいなかった。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	なかなか把握しきれない事が多いが、不具合の訴えや何時もと様子が違う場合には歯科受診をしている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	以前、協力の歯科医に来ていただき講習会を行っていた事がある。最近講習会には行っていないが、受診時にはアドバイスをいただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	出来る方にはご自身でしていただき、難しい方には声掛けや手伝いをさせていただいている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	今までの習慣も踏まえて、声掛けをしているので全員が毎食後には行っていないが、夕食後には勧めるようにしている。しかし、難しい方もある。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合の訴えや何時もと様子が違う場合には看護師に相談し、歯科受診をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修に参加し理解はしている。(実際に職員も紙パンツを利用してみた)				布パンツを使用し失禁がある利用者について、職員が口頭で話し合い、入浴時や更衣時に紙パンツを勧めることに取り組んだケースがある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修に参加し理解はしている。(運動・食事・水分・ストレス・薬の副作用など)				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日、排泄チェック表で確認し記録に残し、その人その人の習慣や間隔を把握し、状態や変化に気をつけている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	時間で誘導するのではなく、その人の習慣やタイミングを見ながら案内している。また、パッドやパンツを使用する場合でも状態に合わせて皆で話し合い、種類やサイズを選ぶようにしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員みんなで話し合い、要因や改善点を考えている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	習慣や間隔や兆候に合わせて、さり気なく声掛けをしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	職員みんなで話し合い、可能ならばご本人やご家族とも話し、決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	夜間のみパッドを使ったり、利用者様の状況に合わせて吸収量やサイズを変えたり、必要のない方には布パンツを勧めたりしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	希望のある方には朝食時に冷たい牛乳を飲んでもらったり、さつまいもやバナナ、ヨーグルトなど食べ物を工夫してみたり、腹部マッサージを行ったりしている。それでも、便秘が改善されない場合は、看護師・主治医に相談して便秘薬を処方していただいている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	活動の状況や職員の少ない時間帯以外は利用者様の希望や習慣を大切に、入浴を楽しんでもらえるよう心がけている。また、希望のない方には2日に1回は声掛けをしている。	◎		○	現在の入浴の傾向をもとにして、一人ひとり入浴の有無を聞きながら支援に取り組んでいる。使い慣れた石鹸を用意しているケースがある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	入浴の順番や浴室、お湯の温度を好みに合わせたり、話の好きな方は話をしたり、一人でくつろぎたい方には脱衣場で待機しながら様子をみさせてもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご本人が出来るところはしてもらうようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	今までの習慣や思いを考えながら声掛けし、それでも、気乗りされない方には時間をすこし置いて再度声をかける等、無理強いないようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	今朝、バイタル測定をし、表情や気分をチェックするようにし、いつもと違う方には入浴前にもバイタルを測定するようにしている。体調の悪そうな方には無理に動めない。入浴後は水分補給をしてもらっている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	ほぼ出来ている。				入眠剤を使用している人について、「服用してもしなくても同じではないか」という職員の気づきがあり、看護師資格を有する職員と相談して中止に向けて観察中のケースがある。また、服薬を始めたケースでは、その後の状態を観察中のような。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない方があれば、職員みんなで理由を考えて対策を考えている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠れない原因を職員皆で考え、日中の過ごし方や関わり方など工夫している。それでも、眠れない方には看護師や主治医に相談しているが、安全面を十分に考慮し安易に薬剤は勧めない。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ご本人の居室で休まれたり、リビングのソファで休まれたりしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族や大切な方が了解していただいている方で、ご本人の希望があれば行っている。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があれば手助けしている。また、届け物等あれば電話を勧めたり、ご家族から連絡があれば、ご本人とお話をいただくようお願いしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	居室や雑音の少ない場所で電話をさせていただいている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙等が届いたら、一緒に喜んだり、お礼の電話を勧めたり、ご家族以外の手紙などは、ご家族にも伝えるようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご理解、ご協力をお願いはしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。ご自身で管理していただいたり、買い物に行った時にご自身で支払いをしていただいたりと、その方の力に合わせて行っている。				/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	○	希望のある方は一緒に買い物に行っている。					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	ちょっとしたお菓子類などは近くのお店へ行くようにし顔馴染みになっているが、最近は買い物へ行く方が少ない。					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	ご本人の力を考慮して、ご家族に相談している。					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	その方の力を踏まえて、ご本人やご家族と相談しながら金額や所持の方法など決めている。					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金は出納帳があり、その都度ご家族からサインをいただいている。出納のない場合でも定期的にご家族に確認をしていただきサインをいただいている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ご家族から希望があれば、買い物や通院など一緒にしている。	◎		○	家族の都合が悪い場合は、受診や衣類などの買い物の付き添いを支援している。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	プランターに花を植えたり、ベンチを置いている。また、保育園や地域の方が自由に敷地内を歩かれている姿も見られる。	◎	◎	◎	玄関周りは掃除が行き届き、隣りの保育園の様子が座ってみられるようにベンチを置いていた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような装えになっていないか等。)	○	台所、トイレ、浴槽など、特に特別な物はなく、一般家庭と変わりない。	◎	◎	◎	ユニットを入ると台所があり、食事をつくる様子がみえる。畳のスペースでは、利用者が腰を掛けて洗濯物をたたんでいた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、利用者様を手伝っていただき掃除をしている。細かい所は夜勤者がする様になっている。				○	居間は、窓から光が差し込んでくる時間には職員がカーテンを引いて調節をしていた。トイレは、においが気になる場所があった。一日を通してテレビが点いていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を生けたり、季節の食材や話題など、意識して取り入れるようにしている。				○	イベントに関係する取り組みや食材などから季節感や生活感などが感じられる。ポインセチアの造花や小さなクリスマスツリーをテレビ周囲に飾っていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りに居場所の工夫をしている。	◎	談話室やリビングのソファなど、思い思いに過ごせるようになって。利用者様の中には互いの居室を歩き来する方もある。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	出来ている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時に馴染みの物を持って来ていただくようお願いし、居室は危険のない範囲で自由に使用していただいている。	◎		◎	家族によっては、タンスの上のものを整理したり、洋服の管理をしたりしている。寝てテレビを見る人には、必ず防止のため同じ方向だけにならないようにベッドの位置を替えて対応している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	全面、バリアフリーが必要な所には手すりを付けている。			○	トイレは、表示やドアの色などが目印になっている。居室入口には、写真や自己紹介などを掲示していた。夜間のみ、自室でポータブルトイレを使用する人のケースがある。ナースコールを設置していた。本人が入居前から大事にしている懐中電灯や写真を布団の頭元の目につくところに置いて、すぐ手することができるようになっていた。保育園側の居室は、窓から保育園の園庭が見えて、子供たちが覗いてくれるので、楽しみにしている方がいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者様の目線に合わせて表示物を貼っている。					
		c	利用者の活動意欲を喚起する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	いつでも手に取れるところには置いていないが、何かをする時にはさり気なく近くで行き、意欲を喚起している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中の施錠は行っていない。全職員に周知している。	◎	◎	○	入職時に代表者が口頭で説明している。昼食後には、帰りたい気持ち強い人が、玄関に向かって行ったが、職員は離れて見守り、玄関先で少し過ごして居間に戻って来た。畳スペースに腰かけた利用者に職員は「熱いお茶を入れようかと聞き、その後、一緒におしゃべりして過ごしていた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を回っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を強く望むご家族は今までなかったが、リスクも伴う事なので希望があれば、話し合っていたい。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の出入りの際や訪問時に、センサーでチャイムが鳴る様になっている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時に聞いた情報を全職員に周知している。しかし、入所してから分かることも多く、その都度職員会などで周知している。				/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタル測定、日中の顔色や表情や行動を観察し、変化や気になることは個別の介護記録に記入している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師の職員が2人いて、24時間連絡が取れ、いつでも相談が出来る体制がある。かかりつけ医や主治医との関係づくりには看護師が受診や往診に努めている。					

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご本人やご家族の希望や病状を踏まえて、話し合っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師に任せてある。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	職員が通院に行った場合は必要に応じて、報告し話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	記録等を持参し、特徴や留意事項、必要があれば日々のケアの内容も伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	お見舞いに行った際には主治医や看護師に様子を聞くようにし、スムーズに早期退院出来るように主治医とご家族と話し合っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	看護師が良い関係を築いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員、看護師には相談、報告をしている。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師と24時間いつでも連絡できる体制になっていて、主治医との連携や相談などの対応もしてもらっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師が二人いて、適時相談や助言をしてもらったり、状態の変化等あれば直ぐに受診してもらっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	全利用者様の詳細を理解するのは難しいので、いつでも確認出来るように、詳細を個別の記録と一緒にいつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬箱へのセット時、服薬前の準備時、服薬時の三回チェックしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	主治医・看護師から副作用の恐れがある等の指示があれば日常的に状態の観察を行っている。また、状態の変化があれば副作用の疑いも考慮して看護師に相談したり、場合によっては薬剤師に聞くこともある。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬が変わったり、主治医から指示があった場合等は、職員間で情報交換し注意深く観察するようにしている。必要があればご家族にも相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	終末期のあり方は、入所時に説明し、状態の変化がある度に、ご家族の思いや意向を考慮しながら、事業所の状況や方針、主治医・看護師の考えも踏まえて話し合っている。しかし、時代の変化もあり事業所の方針も変化している。				利用者の状態変化に応じて、かかりつけ医の判断で受診から往診に変更しており、その折を捉えて家族も含めて口頭で終末期の方針について話し合っている。 さらに、利用者にとってどうかという視点から事業所の体制や支援のあり様について検討してほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じて、主治医からも話をしていただける場を設けている。	◎		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	基本、看取りケアは行わない方針だが、終末期へ向けて利用者様にご自分で支援できるのか、ご家族はもちろんの事、職員の意見・力量も踏まえて話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時、状態の変化時に話し合い理解を求めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様の状況を踏まえて、ご家族、職員はもちろんの事、医療機関と連携を図りながら、現在の事業所で出来る支援している。また、今後の変化に備えての検討は随時している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の不安な思いを考慮しながら、少しでも不安が和らぐように利用者様の出来事や状態の変化などを話すようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	各自、研修等に参加して学んでいる。また、事業所内で感染症対策委員会を作っており、定期的に勉強会を開いている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	現在の事業所の力で出来る「感染症マニュアル」を作成し、的確な対応ができるように勉強会や訓練を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市役所や医療機関、インターネット(キントーン)や地域の学校・保育園などから情報を得ている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	職員各自でアンテナを張っているため自然と情報が集まっている。看護師が受診の際に聞いたり、市役所や保健所、学校や保育園、ご家族からも感染症が流行したら教えてもらっている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は1ケア1手洗いを心掛け、体調が優れない時は早期受診やマスクの着用をしている。来訪者にはマスク・手指消毒の協力、明らかな風邪症状のある方には面会を遠慮していただくようお願いしている。利用者様にも強制ではないが手洗い・うがいの協力をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	可能なご家族には、受診や外出、行事の手伝いをお願いしている。遠方の方や面会に来られない方には近況報告や電話で状態の確かめをもちろんの事、こんな面白い事があった「あんな事があった」など明るくなるような事を心掛けて話すようにしている。				年2回交流の場として家族会を開催しており、参加率も高い。 その他に、行事や「茶らん！ほらん！」の開催などについて、毎月発行する通信で誘っているが参加者が少ない。 毎月、グループホーム蘭通信と個別の近況報告を送付して日常の様子を報告しており、好評を得ている。 行事や新人職員紹介は、グループホーム蘭通信に載せて知らせている。 設備改修や機器導入などについては報告する機会が少ない。 利用者の状態や暮らしぶりを伝えて、気がかりなことや意見を出してもらえよう取り組んでいる。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気持ちの良い挨拶・お茶を心掛け、その方によって話しやすい場所で話してもらったり、話に困っていたら話題を提供したり、オヤツや食事を一緒にしていただく時もある。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	年2回の家族会や運営推進会議に案内し活動等に参加してもらっている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、近況報告(手紙・写真)と活動報告(たよりの発行)を郵送させていただいている。必要に応じて電話もさせていただいている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	ご家族の知りたい事や不安な事が分れば、安心していただけるような解答・報告をしている。しかし、訴えられるご家族が殆どおられないので、さり気なく面会時等を利用して聞く様にしてる。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今までの色んな関係性があるので、無理強いはせず、そのご家族に合わせて距離感を意識しながらも関係性が途切れないような対応をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	大きい事は、家族会や運営推進会議など、ご家族が集まる時や書類で、些細な事は近況報告や面会時に伝えている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	年2回の家族会や適時、行事などの案内を出して参加していただいている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	家庭的な生活環境で生活する上で、完璧な安全は難しいことを理解していただきながらも、可能な限りリスクを減らし、その人らしい生活が続けられるように対応策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	積極的ではないが、面会時にはそれとなく聞く様にしてる。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に説明し、理解を得て同意していただいているが、入所時にはご家族も気持ちにゆとりがないのか、契約内容よりも早く手続きを終わらせたいと思われている方が多い様に感じてしまうので何か対策を考えたい。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に説明をしているので、ご本人やご家族と話し合いを重ね、納得のいく退所先に入所できるように支援している。退所された後も情報提供や面会に行っても関係が途切れない様にしてる。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	変更があった場合は文書でその理由・内容を知らせている。問い合わせがあれば、その都度説明をし理解を得る努力はしている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時、増設時に地域への説明会を行っている。			○	保育園の運動会では、利用者もパン食い競争に参加した。節分には職員が鬼役になって協力している。調査訪問日は、保育園で餅つきをしており、午後には園児が餅のおすそ分けに来ていた。 近所に自宅がある嬉しい気持ち強い利用者には、外を歩く時、公民館長や近所の人が声をかけてくれる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日常的な挨拶を心掛け、地域の行事に参加している。また、運営推進会議に公民館館長や区長、民生委員、保育園園長、地域住民などに参加していただき、理解を深める働きかけを行っている。		◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	声を掛けていただいたり、野菜や果物などはよく持って来ていただく。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	外で会うと気軽に話をさせていただくが、遊びには殆ど来られない。しかし、野菜や果物などはよく持って来ていただく。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	玄関先や散歩中に気軽に挨拶や会話はしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方が「歌や踊り」に行こうかと声を掛けていただいている。また、地域の行事に誘ってもらい、事業所の席を準備してもらう時もある。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	お店、公民館、学校、お寺などはあるが、一人ひとりとなる把握しきれていない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小学校や保育園との交流会や買い物に行くとき気軽に店員と話が出来たり、災害時には近くの事業所にも避難させてもらえるようになっていたりしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	市の担当者、区長、公民館長や民生委員、ご家族、近くの事業所の管理者さんなどに毎回参加してもらっているが、利用者様は殆ど参加される事はない。(現在希望される方はない)	◎		△	地域住民や家族などは毎回参加しているが、利用者の参加はない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	入居者状況や活動内容を報告し、意見交換や相談をしている。外部評価の趣旨や目標、結果はアンケートのお願いと一緒に概ねしている。			○	入居者状況や活動報告を行い、外部評価実施後には結果を閲覧したり、目標達成計画の内容を報告したりした。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	内容はマンネリ化はしているが、毎回全員から意見を聞き、提案やアドバイがあれば検討し運営に活かすようにしている。			◎	△	会議時に、意見や提案を引き出して聞いているが、日々の取り組みやサービス向上に活かしたり、その状況や結果についての報告はあまり行っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	運営推進委員のメンバーは決まっているが内容によっては、メンバー以外の方にもお願いをするようにしている。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	記録は市役所に提出している。また、誰でも見られる様に玄関付近の廊下に掲示している。					
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所独自の理念があり、全職員が覚えて実践に繋げられるように努力している。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先に掲示し、誰でも見られる様にしている。また、運営推進委員からのアドバイスで委員会の資料には毎回理念を記載するようにしている。また、家族会の時に理念と施設長・職員の思いや気持ちを紹介したこともある。	○	◎			
42	職員を育てる取組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	誰でも自由に研修を受けられるように、全職員に研修案内を回覧するようにしている。また、最低年に1回は研修に参加してもらい、研修内容によっては力量に合わせて個別に勧めるようにもしている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	管理者は計画的には行っていないが、スキルアップに繋がる研修等へ参加出来るように、勤務等の調整や金銭的なサポートを施設長がしていたりしている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務のシフト、休暇などに十分に配慮してもらっている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修や交流会を含んだ研修会等への参加を勧めている。また、地域密着型サービス協会の研修会の受付などの準備も手伝っている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	飲み会や勤務体制、リフレッシュ休暇等の環境作りに取り組んでもらっている。	◎	◎	○		法人代表者は、ほぼ毎日事業所に訪れており、職員と話をしている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会等に参加し、十分理解している。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	時間に余裕があれば、その都度話をしたりするが、月に2回職員で集まる機会がある。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	十分理解している。			○	外部研修受講者が後日、職員会時に内容を報告してみても勉強をしている。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	施設長・事務長がほぼ毎日来られていて、声を掛けてもらっている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修に参加し、理解している。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	職員の都合で利用者様の行動を制限しない様にと、共通認識で行っている。疑問に思ったら、その都度話し合ったり、必要なら会議等で投げかけて皆で考えるようにしている。					
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を回っている。	◎	職員の都合で利用者様の行動を制限しない様にと、共通認識で行っている。疑問に思ったら、その都度話し合ったり、必要なら会議等で投げかけて皆で考えるようにしている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修に参加し、内容を理解出来るようには努めている。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	今までに相談された事がないが、相談があれば対応したい。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	現在利用する予定がないが、必要があれば相談は出来る。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	簡潔に、何かあった場合は看護師に連絡し、緊急時は救急車を呼ぶようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に事業所に消防署の指導に来てもらったり、適時研修会にも参加している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	見つけた職員がヒヤリハットにまとめ、直ぐに全職員が周知出来るように回覧し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	ヒヤリハット対策委員会が色々な視点から検討をし、月二回の職員が集まる会議で再検討をしながら再発防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	・苦情相談窓口があり、苦情があれば直ぐに検討し対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	出来ている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	出来ている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をついている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々の会話や表情や態度で確認するようにしている。また、介護相談日があり介護相談員に来てもらっている。			△	運営推進会議に利用者は参加していない。個別に聞く機会はあまりない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をついている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	入所時に玄関に意見箱が設置してある事、第三者機関に相談できる事を、契約書に連絡先を記載し説明している。また、面会時にさりげなく聞くようにはしている。	◎		△	運営推進会議に参加する家族は機会があるが、参加しない家族は機会が少ない。意見箱の利用はない。家族会は交流会として行っている。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	ご家族との会話の中で必要性が感じられたら、再度第三者機関がある事を伝えている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をついている。	◎	ほぼ毎日来られるので必要ならばその都度相談できるし、職員会では必ず要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	しているつもり。			○	職員会時には、意見や提案を聞いている。利用者の発言などの情報を持ち寄り、行事などについて検討することもある。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議では、評価結果をメンバーで回覧したり、目標達成計画の内容を報告したりした。家族には、フムネットで評価結果を閲覧できることを伝えている。今後の取り組みのモニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果はインターネットや事業所の玄関先に掲示してあるのでいつでも確認できる事を伝えている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、玄関先に掲示している。				地区の避難訓練に参加したり、運営推進会議と併せて避難訓練を行った際には、会議メンバーも参加した。その後で、アドバイスをしたり、感想を聞くなど話し合いを行った。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月1回、避難訓練をし、定期的に消防署に指導に来てもらったり、運営推進委員に協力してもらって夜間を想定した訓練も行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は定期的に業者が行っている。非常食等は職員が点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署や運営推進委員に参加してもらい、訓練後には意見交換をしながら今後の取り組みに活かしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の防災訓練には職員のみ参加した。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判断した理由・根拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア視点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進委員会で相談になれることは伝えている。				運営推進会議時に「事業所は相談できる場所」と説明しているが、相談支援を行う取り組みは行っていない。 地域行事の機会を捉えたり、地域ニーズなども探りながら、相談支援を行うような機会をつくってはどうか。 地域の盆踊りの折に、灯笼を飾ったりしているが、地域資源と協働する取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議で相談になれることは伝えている。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	今後、活かしていきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや職場体験の受け入れは行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のイベントには参加しているが、協働とまでは言えない。			△	